

筑波問答
関白良基
全

伊地知文庫
文庫20
132



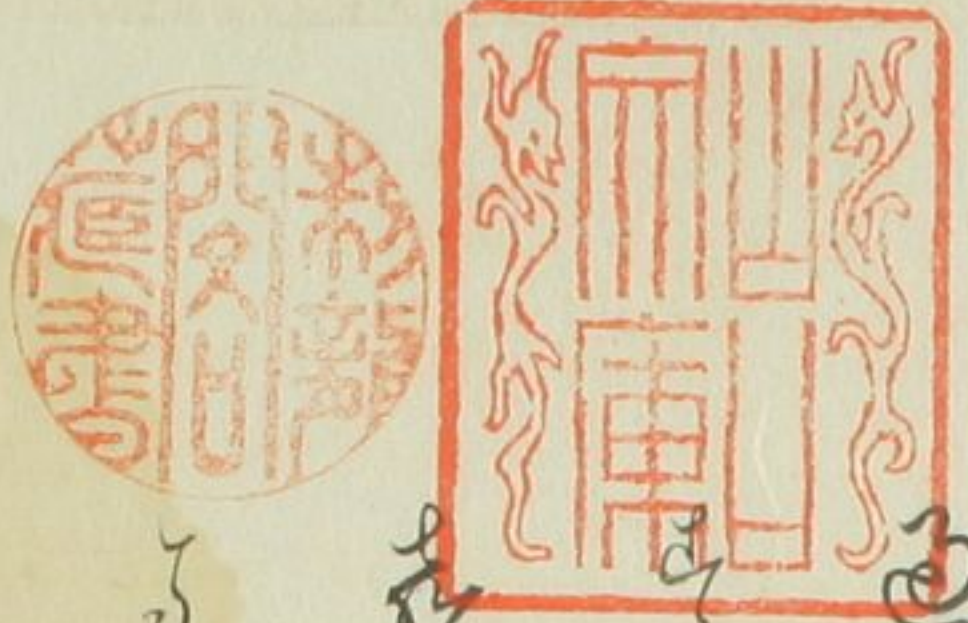
橋政園の良巻の者

しゝと問答

伊地知氏書冊

伊地知氏の法による旧池の龍首の拂蛙樂の

伊地知



のむし物徳園のあき水の心をさうとすといふ水菜
徳園よりさへぬといはれりては山の山ありて
やうふ打はるる時ちうさ法を老の心も教むの油丸
水もさるるさるる地へ伝へ出たり松の心ありて
人なり誰をんとてうし道はいはれり人なり存たり

申より侍ひの申いさへ高き侍ひぬさうりちちあうり
りくしし物も出さしむもさきも只さの申とほる
はさしちういもさしむもさきも只さの申とほる
はさし何あ平よりあひぬんしし今ハ五平交
も成ぬんは湯水のまねも後名御院の湯時りく
ん侍りしちういさへ高き侍ひしと対交
兼元二年の比りしと後名御院三系坊門殿とさき
ころき他もあひて詩哥後結の湯松水と侍り
後湯殿の湯時をい泉殿と侍連哥年毎庚申
の日の必侍りしちうい年内侍か将内侍をとりぬ房連哥

源さまの中より紅の袴衣の書口をい出でうかりみち
くとんまぬぬ白もい出され侍りしは人々感懐も
言をさし吟詠せられき又湯殿取の尼とせしちうい
世那師の侍りしとそれの草極入道中納言殿をい同し時の
今も侍りしちういけはさき井の連哥師をい侍りぬ
世念の申ちういをい袖ちぬししと何事よりぬ
身よたつ申をいばぬしとあひぬんしとあひぬん
今も歌連哥も道もあひぬんしと常陸の
飛波のちういのものさし日本衣をいよあひぬん
郡のさし甲斐水源折の宮と侍連哥あひぬん

そ八偈と申あり 痛の經は傷れと云はるゝ則連音と
かゝるゝの連句とPあり 我もその歌と申祢をれ
連音とPありし人はいはるゝとPありし
一箇の連音のいり世のせうりちと申はるゝとPありし
と云はるゝとPありし

答云 古今假名序より貫之のりある 天の傍にありて
と云はるゝとPありし先おりの答のふ

あまのこゝろにありしと云はるゝとPありし

と云はるゝとPありし

あまのこゝろにありしと云はるゝとPありし

吾も二人といふは連音といふとありしと云はるゝとPありし
發の眼のよゝと云はるゝとPありしと云はるゝとPありし
侍のいゝと云はるゝとPありしと云はるゝとPありし
たぢりもあつと云はるゝとPありしと云はるゝとPありし
連音といふと云はるゝとPありしと云はるゝとPありし
日本赤毛の東の夷志津巻のいゝと云はるゝとPありし
信傳りし 難波山にありしと云はるゝとPありし
あゝ一 時 景武尊 御句い
珥比磨利 菟玖波 鳩須 擬底 異玖 用加
祢菟流

まへに付る人のまうりしよ火とともさといふまうりちまわ

そのはけくち

加感奈陪底用珥波虚々能用比珥波莞

珥加珥

も付連のちあわめびあるとらん

其後百葉集に入者家持の

さか川の氷あきいさくくし田を

とらる尼

かきまき稲いむとらるしと付連かまうち申

とも波集に抄あふらり拾遺金葉ちよの勅撰し付連

これと只一句つ云控者申しそ廿十句而句をい及ふ

申いさうりまあうらるは後名村院建保の法よりまうら

又名くの賦物の獨連歌を定家宗隆のうと記され付

より百韻をいも付る名又名くのまおるといふこれて

抄にけき抄合も付るちのりまき連言とて柿本の言

若付れまうらまとい栗のちあふと別巻の法きてと志

付りし有んをんというらまき連言と相句といふま

せ出し申もつゆの付り土御院順徳院ちといふ御製を

録の法類ちといふ御製付し其れち後法成院の御代

あし又真行もくく民分入道殿孫氏大納言殿ちとち

もさあかきうし一承傳し大なる京極中納言殿も老
後も日毎の進言をせられ傳し一御膳所の尾と名
しあとの上手より常の張行もるを彼日記もたまに
あしをり進たり誰の定く御膳傳んき一後膳殿
の時時福光園園白殿園相寺攝政殿唐申の時連歌
もたじ一さらりせあひきり進も名譽の上よりて傳
あるとくや中房より兼内侍水將内侍上下御所いなる
増進より一傳し九条内大臣基家衣笠内府家良知
家行家にちととの時きよしきる人より傳も中地下も
印本好士地かりりしりもく一進道のく一此のくしは

うは取分く一ぬきり出きもも傳し一進生寂恩無生を
しし一者も昆沙門堂法勝寺の印のくし一そより
はれとのぬく集きて表毎の連言傳りしまがりのちに
衆の名の傳も地下の好士も多くなり傳りし進くハ
爲世爲相爲藤心ちとこひく一の式目はこれをもて
賞給せられ一事は無下よりうたれ申る進ハ定く御膳も
及もせあひぬん一又御膳屋のむし一も院の御車
ちとあら進し申傳りき一又後光明照院殿ハ年より御車
たてら進く御膳のちとあら一も園東も代この後領
ちとあら進し一申る進ハ印も及の傳も進くハ等持院

殿跡不滞教ありを勅撰此執養をいひしと名を記し
しじしとの再ちもよもを問ふも今よけりちの培能
よを傳ふあり但連歌れやうの師説をうきやをれも
て時よはひて風のうけりて道とらぬものふちりゆを傳
ちり救謝も善詞りや子とぬりて道もや深ふもいひぬ
このよを傳ふ青き中一藍より出て藍よりも青く氷の
あり出て氷ありをいひし中一の道に氷の母もいふ
成り傳へし道もいひ後生ちりて中一の傳ふや凡連歌
いひちりの道も本をいひてちり勅撰のよをれ
ゆりの道もいひてなれを後の人いひ今も傳へし
よや古の道もいひて秀句對句を思ふありといひは昔も
さうりて申はる又自の成りていひるやうふといひけ
きもいひていひていひていひていひていひていひて
いひていひていひていひていひていひていひていひて
ちり中一の道もいひていひていひていひていひていひて
傳ふと老の命もいひていひていひていひていひていひて
心ちり民の舟ふをいひていひていひていひていひていひて
毛詩といひていひていひていひていひていひていひて
よやちりしき文よ嗟嘆もいひていひていひていひていひて
いひていひていひていひていひていひていひていひて

い奇ともちりてちりて人ハ罪ちりて改ちる事
傳也亦必も日本ハ奇ハ童謡とておと久
傳る一万余ありと只月也對しある舟ハおちく詠し
傳りされハ古今の序もいさまのちりてその
さふといふハちりて又もちりてあるハ
好の中ちりてちりてもいさまのちりて
今も亦ハちりてちりて月也
風接の染ちりてちりて世理ハ
傳もいさまのちりてちりて道理ハ
奇ハちりてちりて一字のてふハ
いさまのちりてちりて上もちり
そのちりてちりて傳の句ちりて
ねもいさまのちりてちりて換ハ
伝も世も道理とハ二字ハ
くもちりてちりて詞もちりて
傳も世のちりてちりて風雅のちりて
一問云連奇ハ善事ハ
周縁もちりて傳ハ
答云大なるも現世の諸佛も奇ハ
事ハ神佛ハ人の聖ハちりて奇ハ

根原より河邊のうへへあはれをききよむに外日本記風土
記も國の名所の頼りなきもあはれを深く秘言
のんくをあはれなきも又原氏伊勢物語今以第
代これ撰集各所の名案ありしやうれ物も常ふにあり
ゆきよちを只文士の撰集ありて二万の巻切とて
我物よちしあはれ外の事いふまじきや

一同云也言は根原の事いふぬいふ承りぬぬ真実
の風傳いふるとり本とはなきもあはれ物いふぬぬ
只あぬふ爲しありし言ふ物のやえぬぬいふぬ
事いふまじきあはれ者ぬみらひきてやう撥迷せむす

あはれいふまじきあはれ者ぬみらひきてやう撥迷せむす
いふまじきあはれ者ぬみらひきてやう撥迷せむす
いふまじきあはれ者ぬみらひきてやう撥迷せむす
いふまじきあはれ者ぬみらひきてやう撥迷せむす
いふまじきあはれ者ぬみらひきてやう撥迷せむす
いふまじきあはれ者ぬみらひきてやう撥迷せむす
いふまじきあはれ者ぬみらひきてやう撥迷せむす
いふまじきあはれ者ぬみらひきてやう撥迷せむす
いふまじきあはれ者ぬみらひきてやう撥迷せむす
いふまじきあはれ者ぬみらひきてやう撥迷せむす

一上古辨

^{日本記}ふおちりれはくもよもまじきいへて候り候り

少のそりいむ名ありの郡いふくまは辨殿いなり顯昭云
少のそりいむ名ありの郡いふくまは辨殿いなり顯昭云

兼燭の人をいふ

のちろく初よの夜日ふた十日と
のちろく初よの夜日ふた十日と

家持の

棹川のあせきしほくくし田比

のちろく初よの夜日ふた十日と

かのまきしゆきしほくくし

一中古躰

天曆御門

小夜更くまの初めれく成るり

滋野の内侍ははそく

ゆきよのふりしほくくし

頼御法師

柳子のこまきしほくくし

公輔御臣

じ免唄の梅きちうや

田の中ふきしほくくし

僧正真覚

田の中ふきしほくくし

宇垣道開白

げ水なるりしほくくし

賀茂川

頼綱

賀茂川

信隆

かり

一近來

と

後二位

か

さ

前中納言

し

谷

前大納言

し

し

少将

し

し

氏

春まけもうらたてつらなる山さくら
さくらをやはらちしきとてしるす

兼内侍

申す事なりともその衣身にちれく

小蘇もくふくあはき夕の道しふ

後二位家隆

唐のうを毛ぬかやうぬらん

寛治元年二月十五夜仙洞御連高よ

山さしのかせのたふりに人あそ

が将内侍

しよともきねを萩あうい風

前大納言為家

さぬき江福さゆらちち秋の夜ふ

寛元四年三月法勝寺のちま

とれつとていそくあふ

寂因法師

梅のま風自ふらちりい道やうて

寶治元年二月昆沙門堂のう下え

梅もよとてさくらの木葉を

世生法師

句はもろりくうういさしめくさる

同三年三月昆州門堂のちとて

おもさきぬやうさのゆま

道生法師

うちちひく柳の枝の凍き日ふ

おもさきぬやうさのゆま

園本十兼白

山ろく梅のうきあは玉咲く

元享三年四月龜山殿百韻述言に

たぢし雲井もさる高しき

後宇多院御製

老り身は露る月を海くく

法輪寺千の世言に

つた雪の巻れさうしは情見て

善阿法師

うまき若うの草もさるいし

か福くゆりもさるおきに

前中納言為相

ちぬりの風を到るまゆ

正和四年六月百韻述言に

うきぢりものさしをましき

伏見院御制

花より橋原よりしし吹きて

入花の似て奇やうき舞

帝中綱言為相

かまよきおをうきあにちりり

うきもや奇れ公ちりり

民かた為舞

飛鳥川さのり水淵よりく

夕の色のうきも空をまはれぬ

帝大綱言為世

やま郭より利しるるちりり

おろおろさうきもさうき

善阿塔師

かまよきあまの志者あま

造言舞 風情の 詞付の 本音の

古事舞 心付の 眺るの 對揚の

奇事舞 下付の 季替の舞

誹諧 鬼拉 トリヒク 狂の 初学舞

百のりけまのし行りも定あはハ早ぬれきるとも日能くも傳るあは
難きゆへハ奇れ業しはるハむりしとて夥り也奇跡のせれは
ともありし後醍醐院の帝代ハ井内侍が得内侍るといし中房
まき師といしとてまき師を傳りまき師は地下のまき師とい
ちれといしとて急あはし連奇の相方ハ遠くは只奇のやうに
埒のしりきりせしむるを傳りハ子細き事ハまき師の毒とて一向
まき師を傳りまき師ハ遠くは只奇のやうに埒のしりきりせしむ
難き事ハまき師ハ遠くは只奇のやうに埒のしりきりせしむ
初めのおこし難き事ハ遠くは只奇のやうに埒のしりきりせしむ
ふとこれありやハまき師ハ遠くは只奇のやうに埒のしりきりせしむ

此二再傳字のなまりふやふくつゝ
傳道も異あは集あは校合もふ傳りちく
元中のみか書々奉り傳る道々正し
ありあは事ハあはし祢ふ奉る

文化八のしし辛未孟春吉鳥

臣 林 青胤 寫之

白木家收

